塩ビと環境のメールマガジン
VEC
No. 783
発行年月日：２０２４／９／１９

今週のメニュー

■トピックス
◇塩のはなし（２）　塩の働き　塩素の編集力

■随想
◇知ってそうで知らないシロアリの話　⑯

株式会社テオリアハウスクリニック　平　一暁

■トピックス

◇塩のはなし（２）　塩の働き　塩素の編集力

１．　塩の民俗信仰の源

塩のはなし（１）（メルマガ No.777）では、塩はエネルギーの源泉とはならないが、人体にとっては不可欠な物質であることを紹介しました。また、地理的には人は塩が補給される場所にしか生存できません。その意味では塩は人の生理を左右するだけでなく、社会経済の動向にとっても重要なものだといえます。先のメルマガでも紹介しました『塩俗問答』によると我が国の民俗信仰では、信仰の対象の多くはエネルギーそのものか、あるいはかかる力を持つものであるのに対し、「塩」は直接の対象とはなっていないとあります。日本の沿岸には 200 を超える塩に関連する神社があるようですが、祭神の塩堆神（しおつちのかみ：塩土老翁神、塩筒老翁神とも）は製塩を教えた神として祀られているだけとのことです。

塩土老翁は、記紀神話の「海幸山幸（うみさちやまさち）」にも出てきます。この神話は、天照大神の孫の瓊瓊杵尊（にぎにぎのみこと）の息子たちで、海の漁、山の漁を得意としていたことからそれぞれが海幸彦・山幸彦と呼ばれていた兄弟の話です。ある時、二人は道具を交換して漁をしたところ、弟のヤマサチが兄の釣針を失ってしまいました。兄のウミサチは非常に立腹し、弟を厳しく責めました。困ったヤマサチは塩土老翁の教えにより海の神のもとを訪れることにしました。そこで神の娘を娶り、失った針を取り戻すとともに与えられた呪的な玉で横暴な兄をこらしめ、服従させてしまいます。古代日本の国家統一をうかがわせる神話でもありますが、ここでも塩土老翁神は、神々の道案内や漁業・製塩の神、さらに博識の神とされています。「塩」が生命を支えるために不可欠な機能を持っている（＝間接的に助ける）という塩の本質的な働きのことを体現している神のように思えます。

塩土老翁神等を祀る神社の例

神社名	都道府県	鎮座地	御祭神（主祭神・合祀神・配祀神）
鹽竈神社	宮城県	宮城県塩竈市一森山1-1	別宮に主祭神塩土老翁神・左宮に武甕槌神・右宮に経津主神を祀るが、江戸時代以前は判然とせず諸説があった。
青島神社	宮崎県	宮崎県宮崎市青島2-13-1	《主》彦火火出見命、豊玉姫命、塩筒大神
船魂神社	北海道	北海道函館市元町7番2号	《主》塩土老翁神、大綿津見大神、須佐之男大神、《配》火之加具土神、埴山姫神、罔象女神、倉稲魂神
塩屋神社	広島県	広島県広島市佐伯区海老山町8-12	《主》猿田彦神、《配》塩土老翁神
白髯神社	福井県	福井県あわら市波松13-2	《主》塩土老翁神

２．塩の生命維持・再生機能

『塩俗問答』には、塩に関する各地の言い伝えも紹介されています。

「塩気のあるものを捨てるときには必ず流水に捨てる。これは塩を海に帰すため」

「塩はいくらこぼしても末は海へ流れていくから粗末にならぬ」

「塩の粗末な取り扱いを非常に嫌うが、もし誤って地上にまくことがあっても、塩は元に帰ると云っているから惜みはしない」

こういった海と塩の関係についての言い伝えをみると、海の母胎性のようなものを感じます。日常、不浄不吉なことに対して「塩」で浄めたり、祓ったりすることはよくなされますが、古くは浄めなどに塩水（海水）をかけたりしていたこともあったようです。海に循環させることで穢れたものが浄化、再生していくことを知っていたかのようです。この『塩俗問答』では、「日常どちらかというと白砂状の塩を用いての浄めや祓いが多いためにこの仕方が本来で、塩水を用いるのは二次的の如く考えがちである。しかし、むしろ海水を用うるのが本然の形であり、塩水が得難い場合が多いために塩を以てこれに代替せしめたとみるべき」ではないかと書かれています。海水が本源で塩はその表象として用いられはじめたが、後代では浄め塩として塩のみ普遍化したのではないかという見方です。海水による浄めには、大いなる海への循環の思想が根底にあると同時に、一方で塩のもつ属性（防腐や人体における働きなど）に対する知見や体験、知識も重ね合わされてきたのではないでしょうか。塩は体内の老廃物を排泄するなど生体を不断に浄化する役目を果たしています。塩自身が生命を維持・再生させるために常に手段、方法として用いられてきたといえます。

３．世界流通する塩（西洋と東洋）

西洋では、塩が食物の保存に必要であることが理解されるにつれ、塩の需要は非常に高まりました。海岸や塩湖沿岸では漁獲物を塩漬けにして保存し、これを山地などの狩

猟民や平地の農耕民との間で武器や動物や装飾品などと交換していました。内陸部の農耕民にとっても、植物性食物だけでは塩分が不足するこことから農耕文化がさらに発展するとますます多くの塩を必要とするようになりました。こうして、沿岸部と平地・山地との交換取引は、ヨーロッパや近東諸国、さらにはアジアにまで及ぶ交易路としてリレー式に大きく伸びていきました。また、塩は必需品であることから交換を媒介する一種の貨幣の役目を果たすようになり、ローマ時代には役人や軍人へ塩が供給されるようになっていました。そして帝政時代にはこの塩のかわりに、貨幣が支給されるようになったとのことです。英語のサラリー（salary）の語源はラテン語のサラリウム（salāriumu*）で、塩の支給を意味しています。

*ラテン語の salāriumu は salāriumu argentum の略で原義は「塩代としてローマの兵士に与えられた銀貨」であり、古代において塩が重要な生活物資であったことを物語るもの。1390 年から 1520 年頃までは主に聖職者の俸給を指した（『英語語源辞典』研究社）。

先史時代以来、塩の生産地は交易の中心地として人口が集中し、文化が栄えてきました。ドイツでは、地名のハル、ハレ、イギリスなどではウィッチは塩をつくる家を意味していたといいます。たとえばドイツの都市では、ハルシュタットやライヘンハル、イギリスではドロイトウィッチ、ナントウィッチ、メースウィッチなどが知られています。

中国では、「酒は百薬の長」という有名な言葉の対句に「塩は食肴（しょくこう）の将」が使われるほど塩は古くから重要視されていました。塩の生産地となる沿岸部は中国全体からみれば短く、内陸の塩生産地は限定されていたことから、皇帝の全国支配と結びつき、漢代から塩の専売が出現しています。単に食卓だけでなく政治、経済、社会と深く関係する物質であったといえます。インドでも塩の専売に反対して、ガンディーが弟子たちを連れて自らの道場からボンベイ近くの海岸まで 241 マイルを歩いた「塩の行進」は有名です。

私たちにとって極めて身近な「塩」は、有史以来、人類にも必要不可欠な機能を発揮するものとして、民俗的な信仰や社会・経済・政治のなかで重要な意味と価値を有してきたといえます。そこで次回は、科学としての「塩」の側面について、さらに情報編集とのかかわりについてお伝えしたいと思います。

（つづく）

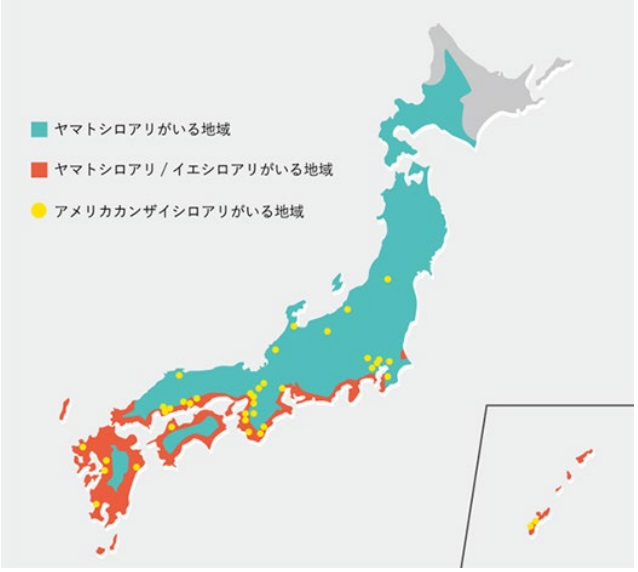
■随想

◇知ってそうで知らないシロアリの話　⑯

株式会社テオリアハウスクリニック　平　一暁

シロアリと聞いて、見せる表情は人によって様々。眉間にシワを寄せる人、体験談を語り始める人、それがどうしたの？とポカンとしている人、そんなの見たこと無いヨと笑う人･･･。そりゃ、人によって感じ方は違うヨ、と思われるでしょうが、コレ、住んでいる地域やどこの出身かによって、違いも出て来るモノなのですヨ、というお話です。

日本全国、どこにでも生息していると言われているのがヤマトシロアリ（以下、ヤマト）というシロアリ。ただし北海道の一部を除いて、という条件がつきます。ヤマトの生息域の北限は、１月の平均気温がマイナス４℃のラインである、という説などありますが、地図で言うと北海道の北東斜め半分から右側の地域では、ヤマトでも生息できないと言われています。温暖化の影響もあり生息域は変化しているようで、新たな地域でシロアリが発見されると今でも北海道では「〇〇地域でシロアリの生息を



日本におけるシロアリの生息分布

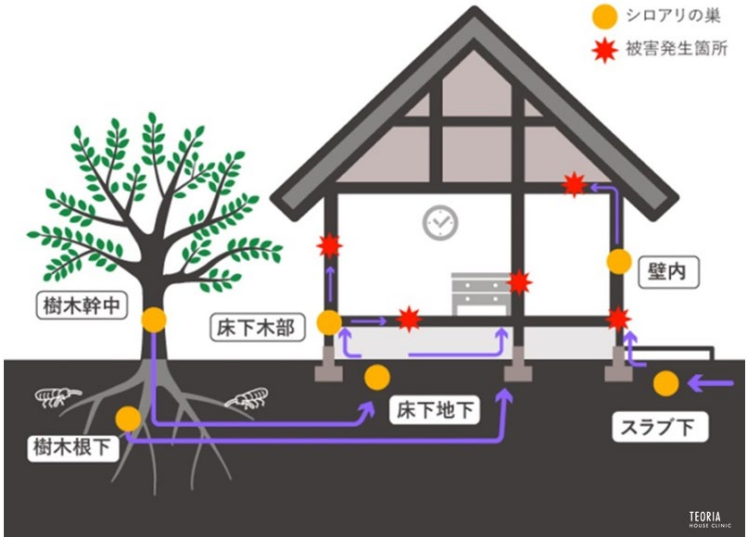
確認！」とニュースになるそうです。考えてみれば、これまで生息していなかった地域ではシロアリの想定などせずに家を建てていた訳で、今後は何らかの悪影響はありそうですよネ･･･汗

ヤマトシロアリの職蟻（働きアリ）と兵蟻（兵隊アリ）

イエシロアリの職蟻（働きアリ）と兵蟻（兵隊アリ）

一昔前、北海道から上京した人が「カワイイ虫を家で見つけたので飼っているの！」と言うので、虫カゴの中を覗いてみると、それはなんとゴキブリだった･･･汗、なんてエピソードが笑い話になっていましたが、ちょっと前までは北海道にゴキブリはいない、というのが定説。ゴキブリとシロアリの先祖は同じなので、生息域も似ているのかもしれません。それにしても、シロアリが生息できないエリアが出身の方々にとっては、シロアリ被害を声高らかに訴えても、はぁ･･･と身が入らないのも当然でしょうねぇ･･･笑

一方で、日本にはイエシロアリ（以下、イエシロ）という種類のシロアリも生息しています。イエシロの生息域は、西日本の温暖な沿岸地域。私が防蟻業界に入った２０年前は、関東エリアだと三浦半島や房総半島の突端にわずかに生息していると言われていたのに、コチラも温暖化の影響でジワジワと生息域が北上しています。弊社の点検でも、横浜や川崎、新宿などで確認していて、つい最近も大宮、最北では茨城県の結城市での確認例がありました。ヤマトとの大きな違いは、水の持ち運びができる事。これにより、被害が甚大になるのです。雨漏りや水漏れがあると、ヤマトの被害は２階、３階に及ぶと以前書きましたが、イエシロは水の持ち運びができるので雨漏りなどが無くても家の高所に被害を及ぼす事が可能。しかも小屋裏や壁内にも巣を作って分巣し、繁殖してしまうのですから･･･汗。被害はより甚大になってしまうのですヨ。



イエシロアリは床下から侵入するが、壁内や小屋裏にも巣を作る

このイエシロの駆除ですが、ただシロアリ防除業者が薬剤散布して殺虫するだけではダメで、女王アリのいる本巣を特定した上で、この女王アリを見つけて殺さないと本当に駆除した事にはならないのです。そこまでしないと、イエシロの被害は止まらない･･･。被害は甚大で、いったん被害が出てしまうと駆除するまでの労力は半端ない。子供の頃にイエシロ駆除に苦労する親の姿などを見ていたら、それはトラウマにもなりますヨ。東日本出身の人に比べ、西日本出身の人の方がシロアリ全般について敏感に反応するように感じられるのは、こんな理由もあるのです。

余談ですが、西日本のシロアリ駆除業者はイエシロの駆除だけでもそれなりに経営が成り立つのか、狭いエリアを地盤に小規模な会社が数多くあるのに対し、東日本の業者はヤマトの予防対策を数多く効果的に行おうとする事から、会社数が絞られる一方で会社の規模は大きくなる傾向にあるようです。

■関連リンク

- メールマガジンバックナンバー
- メールマガジン登録
- メールマガジン解除

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

VEC VINYL ENVIRONMENTAL COUNCIL 塩ビ工業・環境協会

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601　■FAX 03-3297-5783

■URL https://www.vec.gr.jp　■E-MAIL info@vec.gr.jp